

発刊の辞

社団法人日本商品取引員協会

会長 堀野和夫

商品先物取引の機能は、自由市場においてこそ最大限発揮されるものですが、所謂40年体制に始まる戦時統制経済及び戦後の生産優先の管理統制型経済システムの中では、一部商品についての一定範囲での活用に止まらざるをえませんでした。その結果、今日においても、日本経済の中でその本来のあるべき地歩を確立しているとは言いがたい状況にあります。

今後の各産業分野における規制緩和と市場経済化の進展を展望しますと、商品先物取引システムは、市場リスクマネジメントの手段として、公正な価格形成システムとして、また、市場経済化における企業の自助自立を促す手段として、より一層普及すべき経済システムと確信します。こうした見地から、商品先物取引についての基礎的・原理的な調査研究によってその経済的意義を再確認し明らかにすることが、実態経済における実戦的活用を促進し、今後の国民経済の活性化に資すると考えます。

「先物取引研究」の発刊が、商品先物取引に関する調査研究の発表の場として、同分野における基礎的研究の促進・充実に寄与することになれば幸いです。

平成7年6月